



木曽谷・伊那谷

FOREST VALLEY



架線集材全国サミット

2月5日、9:00～

最新の林業機械等展示や
製品説明ブースを設置

in 木曽谷・伊那谷フォレストバレー
～空にカケル道が林業の未来を創る～

日 時

令和8年 2月5日 (木) 13:10～16:30
(受付開始12:15)
2月6日 (金) 10:00～11:30

方 式

会場※とオンラインの併用開催

※会場：木曽文化公園文化ホール

(長野県木曽郡木曽町日義4898-37)

目 的

木曽谷や伊那谷では急峻な地形により、古くから架線集材技術が発展してきました。現在は油圧式集材機やタワーヤードなど最新技術を導入し、安全で効率的な作業が行われています。今回のサミットは、こうした地域の強みを全国に発信するとともに、架線集材技術の継承と向上を目的に開催します。

全国の森林・林業関係者等

2/5 会場200名、オンライン200名

2/6 20名

参集範囲

定 員

参加料

無料 (どなたでも参加いただけます)

参加申し込み 以下のURL又は二次元コードにより1月26日(月)17:00までにお申込みください。

<https://forms.office.com/r/yFLLNPsYuh>

- ・定員に達した場合は、調整をさせていただきます。
- ・オンライン参加者には接続アドレス等のご案内を2月3日(火)にメールでお送りします。



主催：長野県 共催：木曽谷・伊那谷フォレストバレー運営協議会、森林フォーラム実行委員会 後援：林野庁

お問い合わせ：長野県庁 林務部 信州の木活用課 林業経営支援係 026-235-7267 (直通) E-mail : ringyo@pref.nagano.lg.jp

タイムスケジュール

〈併催行事〉スマート林業実証報告会 10:00 - 11:30 (ラジコン下刈り機、地挖え機械等の実証報告)	
①主催者挨拶等	13:10 - 13:20
②基調講演 (仮題) 作業システムにおける架線集材の可能性 高知大学 自然科学系 農学部門 教授 鈴木保志氏	13:20 - 14:00
③先進事例報告 ・架線集材の低コスト化・省力化技術研究会 (和歌山県) ・有限会社ヤマカ木材 (長野県木曽郡南木曽町) ・平澤林産有限会社 (長野県伊那市) ・株式会社前田製作所 (長野県長野市)	14:20 - 15:20
④パネルディスカッション 15:30 - 16:30	
⑤架線集材の現場視察 10:00 - 11:30 ・油圧式集材機を使用した架線集材 (長野県下伊那郡根羽村) ※木曽町から根羽村までの移動は、マイクロバスを予定しています。 ※天候の状況により、内容変更する場合があります	

2月5日

2月6日

登壇者



高知大学
自然科学系農学部門
教授
鈴木保志 氏

京都大学で博士（農学）取得後、平成8年より高知大学に勤務。令和7年より森林利用学会会長。森林利用学・林業工学を専門に、林業用架線や作業システム、林道の計画・維持管理や木質バイオマス資源の収集・運搬などに関する研究を行っている。



架線集材の低コスト化・省力化技術研究会
副会長
井畠啓次 氏

昭和58年に(株)井畠林産を設立し、令和6年からは代表取締役会長として製材・製紙用木材チップ及びバイオマス発電用木質チップの生産を行っている。また、架線集材の低コスト化・省力化技術研究会副会長も務められ、架線集材技術の向上・普及にも精力的に取り組まれている。



(有)ヤマカ木材
常務取締役
勝野泰平 氏

平成26年に家業である有限会社ヤマカ木材へ入社し、歴史ある木曽谷の林業に川上から携わる。

持続可能な森林経営を基盤に、地域社会と産業の発展に貢献するとともに、すべてのステークホルダーの幸福の実現を目指した事業展開を推進している。



平澤林産(有)
代表取締役
平澤照雄 氏

大学卒業後、25歳の時に家族が経営していた平澤林産(有)に就職。

現在は、同社の代表取締役として、伊那谷を中心に油圧式集材機を用いた架線集材による素材生産に精力的に取り組まれているほか、研修会講師等を通じて安全で効率的な架線集材技術の普及も推進している。



(株)前田製作所
担当課長
市川作雄 氏

(株)前田製作所入社後、クレーン及び土木用車両の設計に従事。

林業機械に関しては、平成28年度より油圧式集材機の企画・設計、普及活動に従事している。

令和2年には、森林総合研究所の作業道作設情報化施工開発プロジェクトなどへも参加している。



信州大学
名譽教授
植木達人 氏

北海道大学院博士課程修了（農学博士）後、信州大学に勤務。

信州大学では、森林施業及び経営に関する研究に取り組んできたほか、長野県の林務行政における有識者会議等において座長等の役職を多く務められてきた。令和6年3月に信州大学を退官し名譽教授になられる。